

## ◆グランプリ(第1ジャンル)

### 【いのちの手紙】

[前略]今から1億2千万年以上も前、という気の遠くなるような大昔に生物がいて、その生きていた証拠を私たちに伝えるということは、何と素晴らしいことでしょう!恐竜が私たちによこした化石の手紙は、地球が生きものの場所として永く存在してきた事を証明しています。今の地球は空気・水、土地の汚れによって温暖化や緑の減少を招き、環境の破かい、による地球の滅びが世界的な大問題となっています。今の地球人は恐竜の知らせのように、今後も1億年を越えて子孫に歴史の手紙を残さねばなりません。その意味で丹波竜はまさに「いのちの手紙」と言えるでしょう。

※応募作品には「命、環境、地域、そして私たちの果たすべき使命」に触れるものが多いなかで、この作品は特にメッセージが高く、真摯に考えなければならないことを喚起させ、みんなを共感させる力を持っており、第1回の丹波竜グランプリに相応しいと評決した。

## ◆佳作(第1ジャンル)

### 【大きくてかわいい】

この丹波竜は山の方に住んでいて敵から見えなように身体が緑色です。だから、親子でゆったり暮らしました。丹波の山々に登るために大きくて太い足をして、木の葉を食べるため大きな体と長い首を持っていました。大きな丹波竜でも届かない高い木の葉を食べる時は、岩などを足台にしました。この絵では、岩の後ろにある高い木の葉を、お母さんの丹波竜が子供の竜に若葉を取って食べさせてあげています。お母さん竜は、「まだ、やわらかい葉はあるかな?」子ども竜は「もうちょっと食べたいなあ」と思っている場面です。

※この作品は、優しげなみどりの親子恐竜が描かれ愛らしく、スローライフ的なものを感じさせる。



## ◆優秀賞(第1ジャンル)

### 【かわいい草花の模様がいっぱい】

恐竜の色は、現在の科学でもわからないとの事です。ぼくはきっと、カラフルな色をしていたと思います。巨大な恐竜に成長した恐竜は、その時代の王様です。きっと色あざやかに、目立った事だとも思います。丹波は、自然の豊かな町です。自然を恐竜の模様にしたら良いと思います。

※一般的に茶系のアースカラーで「コワモテ」のイメージを恐竜に持つことが多いと思われるが、この作品はそれを裏切って、愛らしく、優しげでありながら強く印象に残った。



## ◆佳作(第1ジャンル)

### 【カッコイイ】

丹波竜は大きくて強かったです。僕は、野菜もいっぱい食べて丹波竜みたいに大きくなりたいです。

※力強くメリハリのある赤を基調にした絵で、夢や憧れが表現されている。



## ◆佳作(第1ジャンル)

### 【きぼう】

丹波竜は、きぼうの竜だと思います。優しく、ほかの動物達と仲良しで、草花が大好きな可愛い恐竜だったことでしょう。

<丹波竜の特徴>唄を口ずさむ事が出来ます・いやし効果が抜群です。丹波竜の唄声に、ほかの動物達は集まってきます。・人間のように子供の竜のお世話をよくします。背中に乗せてゆっくり歩きます。子供の時は緑色の体ですが、大人になると虹色の竜になります。

・自然を大切にし、花をふまない様に歩きます。花の蜜をなめるのが好きで、蝶々や蜂などの昆虫にもわけてあげます。争い事がきらいで、自然とともに生きたくぼうの星だとも思います。

※恐竜のイメージが弱いが明るく、文字通り希望の感じが残った。



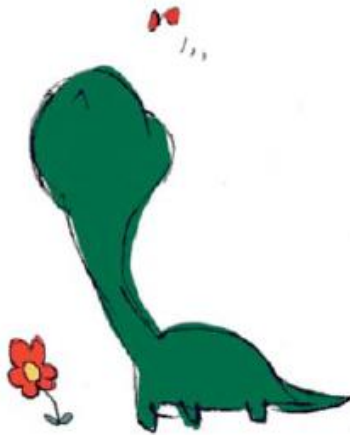


◆グランプリ(第2ジャンル)

【平和】

丹波竜は、草食恐竜です。そこからのびのびとしたイメージを描くことが出来ました。

※この作品には、第1ジャンルと同様に「命、環境、地域、そして私たちの果たすべき使命」に触れるイメージがあって、メッセージ性がある。また、特筆する点は、のんびり、ゆったり、あくせくしておらず、何かしらこの後ろ姿に物語性があり、これからの「ふるさと一丹波」のニュアンスを持っていて、みんなを共感させた。そして、第1回丹波竜グランプリに相応しいと評決した。



◆優秀賞(第2ジャンル)

【輝く生命の不思議】

[前略]ティタノサウルス類といわれるその恐竜が、その頃、どんな風に歩き、どんな風に食べ物を確保し、どんな風に他の生き物と闘い、どんな風にカップルをつくり、どんな風に子どもたちを育てていたのか…想像するだけでワクワクしてしまいます。1億年以上もたってから、奇跡に近い素晴らしい状態で人類に発見されるという「不思議さ」も含めて、「生命」の輝きと、生命の「不思議さ」に、あらためて驚かされます。

※第1ジャンルのグランプリと同様に発見されたロケーションが書かれていて、慈しむ地域のことを読み取れ、この企画の成果を何々に使用するというだけでなく、ほんとうに共感できるメッセージで、どこからか力が湧いてくる作品である。

◆佳作(第2ジャンル)

【進化の足跡】

[前略]地球が育んできた、「生命を生み出す力」を、人類が奪っている、そのことを私達は自覚する必要があります。あらゆる生命は、単独では生きていけません。自然の恩恵を受け、他の生命を奪うことで、自らの生命を未来へ繋げているのです。私達には、地球と、そこに生きる全ての生命を守る義務があります。人類が誕生するまで、その生命を繋いでくれた、過去の生命に畏敬と感謝の気持を持ち、利他の精神で生きていくことが、これからの私達に必要なことだと思います。

※地球の持つ力を損なわせず、また私たちの責務についてのメッセージは、その通りだと思う。

◆佳作(第2ジャンル)

【みんな、いのち】

[前略]化石は懸命に生きた命の証でもある。皆、一つ一つかけがえのない命である。地球上に存在する生きとし生ける全てに思いを馳せ、それらをいつくしむ事が、引いては地球を守ることになる。それを丹波竜は教えに来た。「みんな、いのちなんだよ」「大きな動物にも小さな動物にも、一木一草にも、全てに命があるんだよ。命を大切にするんだよ」[後略]。

※化石を生きた証だけでなくその年月のなかに含まれるあらゆる命に思いやる言葉に優しさがある。

◆佳作(第2ジャンル)

【みんな、いのち】

[要約]「時間と空間を越えた心のつながり」を感じるスポット。それが丹波市です。今、現代に生きる私たち人間に大切な何かを教えてくれようとしているのではないのでしょうか。

※優しい恐竜の背に丹波市の状況が端的に描かれていて、まさに「丹波竜、出現」の感がよく出ている。

